

共催ワークショップ

■主催:北海道大学社会科学実験研究センター ■共催:グローバルCOE「心の社会性に関する教育研究拠点」・文部科学省特定領域研究「実験社会科学－実験が切り開く21世紀の社会科学－」

How Competitive are Professional Women? A Tale of Identity Conflict

●日時: 2011年7月26日
●場所: 北海道大学文学研究科 E204室

Song氏とCadsby氏は実験/行動経済学の専門家であり、近年は男女の賃金格差の問題に取り組んでいる。本ワークショップでは、まず競争的環境における性差に関する研究がレビューされ、なぜ女性が男性に比較して競争的環境において成功しにくいのかが議論された。次に社会心理学におけるステレオタイプ脅威の研究が紹介され、劣った集団に属するというステレオタイプ認知が実際のパフォーマンスを低減する効果について紹介された。そして、これらの知見をもとにSong氏らが実施した、経済学を専攻する学生を対象に実験結果が紹介された。この実験結果は、性別やアイデンティティに関するプライミングが、競争への志向性に対して効果を持つことを明白に示しており、その社会的インプリケーションが議論された。



スピーカー
Dr. Fei Song
(Ryerson University)



スピーカー
Dr. Bram Cadsby
(University of Guelph, Canada)

GCOE 「心の社会性に関する教育研究拠点」 総括シンポジウムのお知らせ

本GCOEプログラムは、今年度がプログラム事業期間の最終年度となるため、5年間の活動の集大成として、研究成果と教育実績の発表を行うシンポジウムを、2012年3月17日（土）に学術総合センター（東京都千代田区一ツ橋）において開催いたします。本拠点リーダーの亀田達也をはじめとした事業推進担当者によるトークのほか、下條信輔氏（カリフォルニア工科大学生物学部）、坂上雅道氏（玉川大学脳科学研究所・大学院脳情報研究科）、長谷川英祐氏（北海道大学大学院農学研究院）、山本真也氏（京都大学靈長類研究所）など、各分野のトップリサーチャーをゲストとして迎え、「心の社会性」

をめぐる科学的研究のこれまでとこれからについて議論する予定です。また当日は本拠点の若手研究者によるポスター発表のほか、拠点外からもポスター発表を募集します（募集開始は来年1月ごろ、本GCOEホームページ <http://lynx.let.hokudai.ac.jp/CSM/>において行う予定です）。ポスターアワードの設定、発表者への旅費援助等も行いますので、ふるってご応募ください。

また、翌日3月18日（日）には、同センターにて前拠点リーダーの山岸俊男（北海道大学文学部）による退官記念講演が行われます。よろしければ合わせてご参加ください。

Newsletter

10

November 15, 2011

北海道大学大学院文学研究科・教育学研究院・経済学研究科
カリフォルニア大学サンタバーバラ校進化心理学センター

CONTENTS

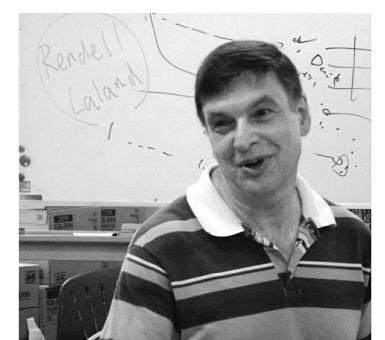
- 2 CERSS
- 3 若手スピーカーシリーズ
- 4 日本シミュレーション&ゲーミング学会
2011年秋季全国大会
- 5 第21回
国際ワークショップ
- 第11回
一般公開ワークショップ
- 6 共催ワークショップ

若手スピーカーシリーズの開催・ 総括シンポジウムのお知らせ

2011年6月から7月にかけて、本GCOE拠点の教育研究活動をソフト・ハードの両面で支援する社会科学実験研究センター（CERSS）において、全5回の若手スピーカーシリーズが集中開催されました。

このシリーズでは、社会科学実験にかかわる諸領域で活躍する新進気鋭の若手研究者を招聘し、それぞれの最近の研究について講演していただきました。

本号では、上記のCERSS若手スピーカーシリーズの内容に加え、夏から秋にかけて開催されたワークショップ、日本シミュレーション&ゲーミング学会2011年秋季全国大会（共催）などについてご紹介します。そして最後に、本GCOEプログラムのまとめとなる総括シンポジウム（2012年3月開催予定）についてお知らせいたします。



CERSS若手スピーカーシリーズ



スピーカー

坂口 菊恵
(東京大学)

第1回

Testosterone: does it suppress or enhance communication?

- 日時：2011年6月23日
- 場所：北海道大学文学部 E204室

坂口氏は、人間行動学、内分泌行動学、進化心理学の知見を統合し、ヒトの繁殖戦略の個人差を性ホルモンから解き明かす研究を行っている。本講演では、男性ホルモンであるアンドロゲンと認知能力、そして繁殖戦略の関係についての先行研究のレビューが提供されるとともに、坂口氏による近年の実証研究の紹介が行われた。男女の繁殖戦略における主な違いは、男性が女性に比べ短期的配偶戦略を志向する点にあると考えられている。氏はこの短期的配偶戦略への志向とセルフモニタリングの高さが密接に関連することに着目し、唾液中のテストステロンレベルの日内変動と、セルフモニタリング尺度との関連を検討した実証研究を実施した。本講演では、この研究から得られた知見が紹介され、繁殖戦略を含めたヒトの行動原理に対して性ホルモンが果たす役割について議論が交わされた。



スピーカー

平石 界
(京都大学)

第2回

行動遺伝学は進化適応を語るか

- 日時：2011年7月13日
- 場所：北海道大学文学部 E204室

平石氏は進化心理学を主領域として、人間の「こころ」の働きの進化的な意味の実証的研究に取り組んでいる。本講演では、行動遺伝学における「遺伝率」の意味についての基礎的レクチャーから始まり、行動形質が遺伝することが「人間の行動形質は自然淘汰による進化の産物である」とする人間行動進化学（進化心理学、人間行動生態学）に対してどのような意味を持つのかが議論された。また、他者一般への信頼感と公共財ゲーム実験における協力行動の関連についての双生児データが紹介され、利他性の進化と個人差に関する仮説が提案された。

第3回

行為者志向型ネットワーク選択モデルによる社会的ネットワークのダイナミックスの検討

- 日時：2011年7月14日
- 場所：北海道大学文学部 E204室

五十嵐氏は人と人を結ぶ関係性（紐帯）の分析を専門としている。本講演では、ネットワーク・ダイナミックスの縦断的分析 (Snijders, 2001) を用いた、ネットワークにおける対人関係選択と一般的な信頼の関連を検討した研究の成果が報告された。氏は行為者志向型ネットワーク選択モデル (Snijders et al., 2001, 2010) を用いて、複数の時点を通じた社会的ネットワーク全体のダイナミックスをモデル化し、高信頼者（一般的な信頼が高い人々）の対人関係選択プロセスを明らかにすることに成功した。この検討により、これまでのネットワーク分析では無視されがちであった紐帯の形成に及ぼす個人要因（一般的な信頼や性別）の重要性が示された。



スピーカー

五十嵐 佑
(北海学園大学)

第4回

行動遺伝学の現在：理論・知見・社会科学的展開

- 日時：2011年7月21日
- 場所：北海道大学文学部 E204室

山形氏はパーソナリティ心理学と行動遺伝学を主領域として、パーソナリティ、認知能力、市民性など様々な個人差の測定と発達の関連について研究している。行動遺伝学は、様々な形質の個人差に与える遺伝の影響を評価するのみならず、複数の形質間の相関関係に与える遺伝と環境の影響、遺伝と環境の交互作用など、様々な分析を可能にする強力な方法である。本講演では、行動遺伝学の代表的な方法を説明するとともに、それらを用いて現在までに蓄積された知見が紹介された。さらに今後の展開として、経済学や社会学などの社会科学において行動遺伝学の果たし得る役割や、最新の萌芽的研究について議論された。



スピーカー

山形 伸二
(慶應義塾大学)

CERSS若手スピーカーシリーズ



スピーカー
竹澤 正哲
(上智大学)

第5回

協力の進化学:理論と実証の新たな接点

●日時: 2011年7月28日
●場所: 北海道大学文学部 E204室

竹澤氏は社会心理学・進化心理学を主な研究分野として、協力行動や学習メカニズムの進化について数理モデル、進化シミュレーション、実験研究などのツールを組み合わせた研究を実施している。本講演では、初めに大規模な集団における協力行動の進化を説明する理論モデルが概説され、その中に潜むいくつかの原理について説明された。続いて、実験研究や小規模な共同体のフィールド研究とそれらの原理との関係が示され、最後に、新たな理論モデルの例示と、制度論における中心的概念である「期待／信念」が、協力の進化を理解する上で重要な役割を担う可能性を持つことが議論された。

日本シミュレーション&ゲーミング学会 2011年秋季全国大会

■主催:NPO法人日本シミュレーション&ゲーミング学会 ■共催:グローバルCOE「心の社会性に関する教育研究拠点」・北海道大学社会科学実験研究センター ■後援:財団法人 科学技術融合振興財団

そもそもシミュレーション&ゲーミングとは何か?~原点に帰る

●日程: 2011年10月22日～10月23日
●場所: 北海道大学文系共同教育研究棟 W409, W408, W410室

シミュレーション&ゲーミングは、立場や利害の異なる主体間の役割と社会環境をモデルとして構築し、それに基づいて設計されたゲームに学習主体が参加することで、合意形成の促進に資する手法である。大会では、シミュレーション&ゲーミングによる問題解決型研究について、様々な分野の研究者・実務家が、研究発表と研究交流により議論した。また、環境問題などの社会的ジレンマ状況や環境政策をゲームを通して体験しつつ考える市民公開セッションも開催され、ゲームを楽しみながら利害関係の異なるエージェント（国家など）間の合意形成の難しさを学ぶ機会が提供された。



第21回国際ワークショップ

■共催:北海道大学社会科学実験研究センター

Network Structural Attributes and the Emergence of Prosocial Behavior

●日時: 2011年7月21日
●場所: 北海道大学文学部 E204室

スピーカー

Dr. Yen-Sheng Chiang (University of California, Irvine, United States)
Dr. Wu, Chih-In (Academy Sinica, Taiwan)

Chiang氏は米カリフォルニア大学アーバイン校で教鞭をとりつつ、社会的ネットワークと利他行動についての理論モデル研究を行っている。本ワークショップでは、初めにネットワーク構造が協力行動の進化を促すことをデモンストレートするモデル研究について概説され、次にそれらのモデルの多くが、暗黙のうちに個人がネットワークにおける他者の地位を無視するという不自然な前提に基づいているという問題点が指摘された。そして、ネットワーク構造の認知が協力行動の進化に与える影響を検討する氏のモデル研究が紹介され、協力行動の進化に対する新たなアプローチが提案された。



第11回一般公開ワークショップ

量子ゲーム理論と量子意思決定論

●日時: 2011年6月7日
●場所: 北海道大学人文社会科学総合教育研究棟 W506室, W504室

スピーカー 全 卓樹 (高知工科大学)

全氏は理論物理学（量子力学）の専門家であり、近年では当然原理の破れ（violation of sure-thing principle）や、連言誤誤（conjunction fallacy）等の心理学的背理現象を、ヒルベルト空間ベクトルで記述される量子確率を用いて記述しようとする「量子意思決定論」にも関心を持っている。本講演では量子意思決定論の定義、その有効性と意義について紹介され、量子意思決定論の現状の概観が行なわれた。また、人間の意思決定に量子確率をもち込む際に、つねにその背景にある「量子ゲーム理論」についても議論が交わされた。

